

1 研究主題

「確かな学力」を身に付けさせる指導方法の開発

～「教えて考えさせる授業」への取り組みを通して(2年目)～

2 主題設定の理由

小学校では、2020年度から新小学校学習指導要領が施行される。今回の改訂では、PISA 調査や全国学力状況調査などにおける課題を受け、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成が求められている。また、あらゆる教科の目標は、「〇〇な見方・考え方を働かせ、・・・」という書き出しであり、算数科でも「数学的な見方・考え方」を身に付けることは必須となっている。

本校では、昨年度より「教えて考えさせる授業」への取り組みにおいて、算数科に焦点を当て、確かな学力を身に付けさせる指導方法の研究を行ってきた。1 単位時間を「予習」「説明」「理解確認」「理解深化」「自己評価」のサイクルで行う授業とし、授業研究を中心に実践研究を積み重ねてきた。また、児童の興味・関心を高める学習を支援する校内環境整備にも力を入れてきた。その結果、学習状況調査からみる学力は目に見えるほど向上し、県平均レベルに達することができた。しかし、観点別にみると、「思考」に課題がみられる。

そこで、本年度は、「教えて考えさせる授業」において、「数学的な見方・考え方」の力を身に付けさせるための授業作りに重きを置いて研究を行い、「学力の向上」「学校教育目標の具現化」を目指したいと考える。そのために、全学級の授業研究と研究会を実施し、実践と研究を深めていきたい。また、確かな学力を身に付けさせるために、家庭と連携し、家庭学習の徹底にも力を入れていく。

このような取り組みを行うことにより、できる喜びや充実感を味わうことで自信を持ち、「確かな学力」を身に付けた東っ子が育成できると考え、本主題を設定した。

3 研究主題の考え方

(1) 「確かな学力」をどのように捉えるか。

学校教育法第三十条第二項に挙げられている通り、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために、必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度とする。

(2) 「教えて考えさせる授業」とは

「教えて考えさせる授業」とは、東京大学大学院教授の市川伸一先生が2001年に提唱した、基礎基本の定着・深化・活用を促す「習得型」授業設計のことである。

すべての児童に、基礎的・基本的事項の定着を図り、学習内容を活用する力をつけるために、授業の前半に「基本的な事項は教師から共通に教え」、授業の後半に「理解を深める課題によって問題解決や討論を行う」という授業である。

4 研究の目標

算数科における「確かな学力」を伸ばす指導方法・課題提示の見直しや既習内容を用いた課題を解決する時間の設定を通して、主体的に取り組む児童を育てる算数科学習の在り方を研究する。

5 研究の仮説

- (1) 学習内容や児童の実態に応じて、「教えて考えさせる授業」を行い、課題提示における教材へのしかけを仕組み、全児童が思考する場面を設定することで、主体的に学習する児童の姿がみられるだろう。

6 研究の内容と方法

- (1) 「教えて考えさせる授業」の視点

予習 視点1 見通しをもって授業に臨む「予習」

「教えて考えさせる授業」では、予習は、授業がより分かりやすくなるということから推奨されている。武雄市で進められている「スマイル学習」を活用した学習スタイルもここで生かすことができる。

説明 視点2 意味理解につながる「説明」

教師が未習の基本事項を、ポイントを押さえた分かりやすい説明で教える。その際、一方的な教え込みにならないように気を付ける必要がある。本校では、対話や活動などを取り入れながら、参加意識を大切にしたい説明を心掛けていきたい。また、説明の内容は「大切」としてまとめ、ノートに残るようにすることで、家庭学習で学び直しができるようにしていきたい。

理解確認 視点3 確かな意味理解を促す「理解確認」

説明場面で扱った問題と同程度の問題に取り組み、子ども同士で説明してみることで学習内容が理解できているかを確認する。意味理解につながるように、説明に「大切」の言葉を使ったり、吹き出しやキーワードを使ってまとめたりするなどの工夫を促す。自力解決ができない場合は、教え合ったり、協力して考えたりしながら理解できるようにする。また、ノートの向きや指差し、対話しながらの説明など相手意識を大切にしたいコミュニケーションができるように実態に応じた指導を行う。

理解深化 視点4 適切な教材提示の工夫により、子どもが主体的に思考する「理解深化」

学習したことを活用して、発展的な課題や誤解しやすい問題などに取り組む。「主体的に思考する」ということは、子どもが課題を自分のものにとらえ、自らの課題としてのぞむことである。課題設定は、生活感のあるものを用い、そこに自分がいるものとして思考し、意見を持ち、話し合いに参加できる子どもの姿を目指して行う。グループや全体で解決方法を話し合ったり、協力して教え合ったりしながら課題解決をする活動を通して、理解を深めることができるようにする。また、適切な問題設定やグループ活動の仕方の工夫により、活発なコミュニケーションを促し、主体的に学習する子どもの姿を目指す。

自己評価 視点5 授業の学びを確実にし、次の学習に生かす「自己評価」

理解状況を振り返り、分かったこと・分からなかったことなどを文章に表現する。とくに、どこにつまずいたのか、どのように考えたら分かったかといった気付きを大切に、今後の学習に生かしていくように促す。

以上のことを図式化したものを以下に示す。本年度は、「考えさせる」段階である「理解深化」(視点4)を中心に研究していくこととする。

	基本的な展開	研究の視点
教える	予習(家庭学習)	視点1 見通しを持って授業に臨む「予習」
	説明『めあて』『大切』 未習の基本的事項を教師が共通に教える。	視点2 意味理解につながる「説明」
考えさせる	理解確認『たしかめ』 子ども同士の説明活動や教え合いを通じて理解の確認を図る。	視点3 確かな意味理解を促す「理解確認」
	理解深化『チャレンジ』 発展的な課題を用意し、グループによる協同的問題解決場面により、参加意識を高め、コミュニケーションを促す。	視点4 適切な教材提示(発問等)の工夫により、子どもが主体的に思考する「理解深化」
	自己評価『振り返り』 自己評価として「分かったこと」	視点5 授業の学びを確実にし、次の学習に生かす「自己評価」

- (2) 「数学的な見方・考え方」を身に付けるための教材提示(発問等)の工夫
 ・毎時間の授業の中で、以下①～⑩を意識しながら理解深化場面を仕組む。

① 選択肢をつくる	⑥ 分類する
② 隠す	⑦ 位置・配置を変える
③ 間違える	⑧ 順序を変える
④ 情報過多にする	⑨ 図や絵に置き換える
⑤ 情報不足にする	⑩ 仮定する

- (3) 授業以外における内容と方法

- ① 講師を招聘しての理論研究を行う。
- ② 教材提示の工夫の研修を行う。
- ③ 家庭学習の徹底と定着を行い、家庭への情報発信を行う。
 - ・算数の予習、「自学」(「まなぶくん」参照)、家庭学習時間の確保についての共通理解を行う。
 - ・学力向上・校内研の便りを作成し、家庭への啓蒙活動を行う。
- ④ 学力調査を活用する。
 - ・算数科における全国学習状況調査(6年)や佐賀県学習状況調査(5年)、市販テスト(1～4年)による結果の分析・考察をして、児童の実態把握を行い、学力の変容を分析する。

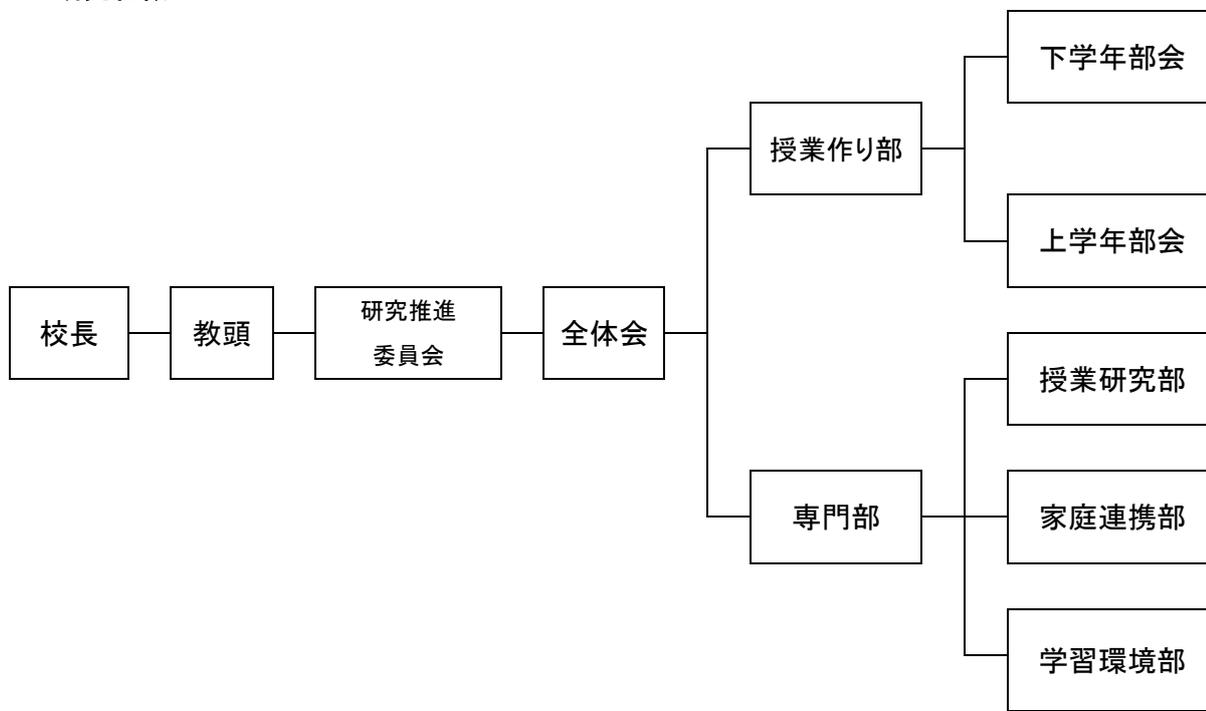
7 具体的な取り組み

- (1) 研究の視点に基づいた研究授業を一人一回実施する。(5月～12月)

- ①全体授業研究会を上・下学年より1回ずつ行う。他の学年はグループ授業研究会を行う。

- ②全体授業を行う場合は、授業案作成段階より講師を充て、1週間前までに指導案（学校訪問の形式）を作成し、授業日の3日前までに模擬授業による事前研を行う。
- ③グループ授業研究会を行う場合は、1週間前までに指導案（本時案のみ）を作成し、授業作り部の各部会で検討を行う。

8 研究組織



研究会		主な活動内容	担当
全体会		<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業による事前研修 ・授業研究会 ・講師招聘による理論研究 	全職員
授業作り部	下学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業指導案の作成 ・検証授業 	川内・山口・古賀 野田・松永・(教頭)
	上学年部会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会の司会・記録 ・授業の成果と課題 	梶原・坂口・森 今田・小林
専門部	授業研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握、学力の変容分析 ・理論研究 ・教材提示の工夫に関する研修 ・取り組みの成果と課題 	○坂口 (教頭)
	家庭連携部	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭への啓発（学力向上・校内研便り） ・「まなぶくん」の実のある活用 ・算数の予習、自学の徹底と定着 ・取り組みの成果と課題 	○今田 山口・古賀・松永 (坂口)
	学習環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の規律に関する指導（時間席、持ち物等） ・環境整備 ・取り組みの成果と課題 	○川内 野田・森・梶原 小林

9 年間研究計画

月	日	曜	研修内容
4	2	火	研究推進委員会（研究主題、内容、組織、活動計画の提案）
4	4	木	研究推進委員会（研究主題、内容、組織、活動計画の提案）
4	24	水	全体会（研究構想の提案）
5	8	水	専門部会（役割分担、活動内容等）
5	22	水	全体会（専門部会の共通理解）、個人研修（課題設定の教材研究）
5	29	水	★提案授業（5年1組）
6	12	水	★全体研（講師招聘）2年1組
7	31	水	全体会（理論研究）
8	21	水	全体会（課題設定の研修）
9	25	水	
10	2	水	
10	9	水	
10	23	水	★全体研（講師招聘）4年1組
11	27	水	
1	15	水	研究のまとめ作成（授業作り部）
1	22	水	研究のまとめ作成（専門部会）
1	29	水	研究のまとめ作成（全体会）
2	12	水	「研究のまとめ」印刷・製本
3	25	水	来年度 校内研構想

※空欄には、グループ授業研究会の日程決定後、記載する。